



© 日本画「めぐる生命」(野村 はるみ 作)



学術研究を守り、人を育て、 豊かな未来の礎を築く

中辻創智社は、未来の科学技術の基盤を育み、次世代を担う若手研究者や子ども達を支えるために設立されました。社会の課題を解決するには、多様な視点と深い探究が不可欠です。私達は、目の前にある課題と真摯に向き合い、時代や社会のニーズに応じて、「研究を守り育てること」と「人を育てること」を軸に事業を展開しています。小規模法人ならではの機動力を活かし、既存の支援が行き届いていない学術研究や人材に手を差し伸べ、より良い社会の実現に貢献してまいります。

高度な専門家集団からなる財団組織

中辻創智社は研究者出身の理事を中心に、弁護士や税理士といった多様かつ高度な専門家集団によって構成されています。すべての役職員、評議員が専門資格や博士などの学位と経験を有しており、各分野の専門家が連携して事業の推進を図っています。この組織体制こそが、独自の視点でニッチな社会課題へアプローチすることを可能にしており、真に豊かな社会を実現していくための原動力となっています。

学術と科学技術の健全な発展を願う

学術と科学技術の発展がより良い社会を創る基盤を支えると信じ、基礎研究の支援や人材育成の促進に努めています。例えば、大きな法人では事業化がためらわれるニッチなところや、先進的なあまり社会的成果の予測が難しく事業化されにくいところ等、既存の支援が行き届かないところへアプローチを行っています。次世代を担う若者が挑戦し続けられる環境を整えることが、未来の可能性を広げる鍵となります。

研究奨励部門

若手研究者向けの助成プログラムで、
基礎研究と学術の発展を支える

研究費
助成公募

会議開催費
助成公募

人材育成部門

多様な背景を持つ人材を育成し、
豊かな社会の礎を築く

理系出身者への
法科大学院
奨学金

困難な状況にある
子ども達への
学習支援

若手研究者が挑戦・探究する基礎研究を支え、 学术交流の輪を広げる

研究費助成公募

ニッチな基礎研究を中心に支援し、
挑戦し続ける研究者を後押しする

未来の自然環境や社会を守るためには、将来の課題に対応可能な準備を継続することが重要であり、基礎研究の発展が欠かせません。しかし、競争的資金を得にくい研究領域では、研究継続を断念せざるを得ない状況が存在しています。そこで中辻創智社は、挑戦を続ける若手研究者への支援を実施。生物学分野の基礎研究を中心に、環境保全や生物多様性などに貢献する研究を守ります。



豊かな地球を守る

一度失われた自然環境を元に戻すことは非常に難しく、未来の保全課題の予測は容易ではありません。だからこそ基礎研究を守り、課題解決の基盤を将来に受け継ぐことが重要です。



未来につながる学術研究の芽を育む

次世代を担う若手研究者が、研究を断念することも多い環境は早急に改善が必要です。50年後、100年後を見据え、基礎的な学術研究に挑み続けることができる環境を整えることが重要です。

会議開催費助成公募

研究者同士の新たなつながりが、
視野を広げる機会を創出する

多様な視点が行き交う場は新たな発想をもたらす、研究の発展を促します。しかし、大学院生や若手研究者にとって会議の開催や学会への参加は経済的負担が大きく、資金不足が大きな障壁となっています。そうした背景を踏まえ、公的資金や企業協賛を十分に得られない会議や若手研究者への直接的な支援を実施。研究者同士の新たな交流を生み出す活動を支援しています。



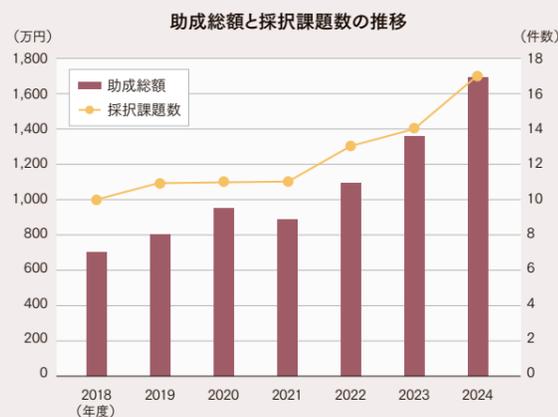
理系・文系を問わない支援体制

中辻創智社では、理系・文系を問わず会議開催費を支援します。シンポジウムや学術集会、勉強会の主催を計画している若手研究者などに、柔軟な支援を行います。



国内では希少な助成公募

海外では重要視されていますが、国内では未だ広がっていない支援事業です。日本における研究の未来を守るためにも、幅広く支援していく必要があると考えています。



- 採択実績 (一部抜粋)**
- 無糸球体の腎臓を持つヨウジウオ科魚類における淡水進出：進化の袋小路から脱却した適応メカニズムと生態学的意義
 - キセルガイが右巻きに進化する遺伝的背景の探求
 - 植物の性転換におけるエピジェネティック制御の役割
 - ラオス山岳地域のコウモリ類の超音波音声ライブラリ開発
 - 東京湾の富津周辺海域における希少鯨類「スナメリ」の生息実態モニタリング
 - サンショウウオ科有尾類の分類形質の再定義
 - ウラン鉱山汚染環境に棲息するMn酸化菌の生態とそのMn酸化機構の解明
 - 極限環境生態系を支える光合成微生物の金属耐性機構の研究
 - 中深層性魚類における生物蛍光の役割を探る
 - 植物は隣人の花の匂いを受容し応答できるか？
 - 絶滅危惧種タガメの産卵場所選択および捕食率の場所間比較



- 採択実績 (一部抜粋)**
- 生命科学夏の学校
 - 生物物理若手の会夏の学校
 - フリーラジカルスクール
 - 土壌学 若手巡検～植生が火山性未熟土の発達に及ぼす影響～
 - 流体若手夏の学校
 - 構造有機化学若手の会夏の学校
 - 中国農村ジェンダー研究 次世代育成フォーラム
 - 人間とはなにかを分野横断的に考える若手の会
 - 勇魚会シンポジウム「海棲哺乳類の文化人類学」
 - 日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際シンポジウム
 - 小型魚類研究会
 - 歴史家ワークショップ

豊かで健全な 未来のために、 多様な人材が輩出される基盤を築く

理系出身者への 法科大学院奨学金

理系素養を兼ね備えた法曹人が、
急速に変化する社会を支える鍵となる

急速な発展を遂げる科学技術に対応するため、法曹界では理系出身者の重要性が増しています。環境問題、AI、宇宙開発、高度医療など新しい技術に関わる法整備や判断の最適化が必要となっており、理系学生の法科大学院進学が増加するような仕組みを整えるべく事業化しました。この奨学金は月額3万円の給付型奨学金で、司法試験実施時期を考慮して卒業後4ヶ月も給付を継続します。



国内唯一の奨学金制度

理系出身者を対象とした法科大学院向け奨学金は、現在、国内唯一の支援制度です。法学部出身者が大半を占め、ごくわずかしかない理系法曹人の増加に貢献します。



理系出身者の活躍の場を拡げる

理系分野で培った知識や経験は、法曹界でも活かすことが可能です。多様な学問的背景を持つ法曹の実現を促し、理系出身者の活躍の場を拡げる支援を行います。

困難な状況にある 子ども達への学習支援

教育格差の改善・水準の向上により、
子ども達の可能性を育む社会へ

子どもは可能性の塊であり、貧困や家庭環境の影響で学習機会を得られない子ども達も高い潜在能力を秘めています。各自自治体による学習支援実施は増加傾向にあり、教材費等の援助が増える一方、支援者の人件費を確保する仕組みが不足していました。そこで中辻創智社では、支援者の人件費助成を軸に支援事業を行い、子ども達の将来が豊かに広がる社会を目指しています。



支援者の思いと努力に寄り添う

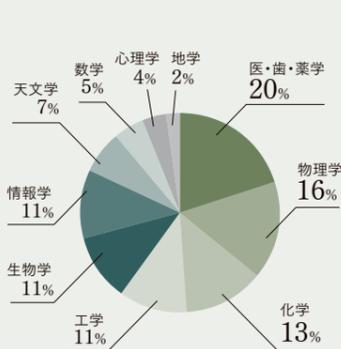
高い志と学習支援に携わりたい思いを持つ学生などが、経済的事情で参加できない状況があります。人件費を出せる仕組みを構築し、支援者の努力に寄り添う事業を進めます。



若者同士の交流が導く豊かな未来

大学生などの支援員は社会課題に触れることができ、年齢の近い子ども達にとっては心を開ききっかけにもなります。子どもにとってのロールモデルとなる存在意義も生まれます。

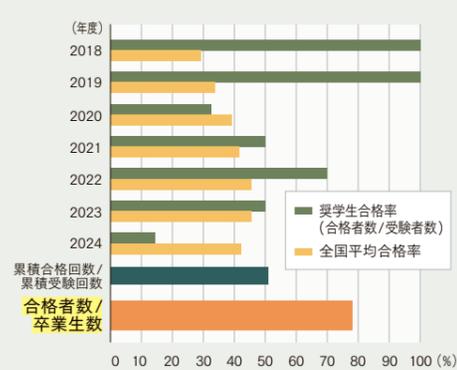
奨学生採用者のバックグラウンド



理系出身者への法科大学院奨学金
給付総額と累積採用者の推移



奨学生の司法試験合格率推移



困難な状況にある子ども達への学習支援
助成総額と採択団体数の推移



採択団体から寄せられた声の紹介 (一部抜粋)

子ども side

- 子どもから大学生に「教えて!」と自ら言うようになった!
- 勉強会に参加した中学3年生全員が志望高校に合格できた!
- 子ども達の自尊心が高まって再び学校に通えるようになった!
- はじめはじっと座っていることが出来なかった子どもが、机に向かうことができるようになった!

大学生 side

- アルバイト等で長続きしなかった大学生ボランティアへ人件費を出せたことで長期的な参加が可能となり、居場所の雰囲気明るく温かいものになった!子ども達がこの明るさを家庭にも持ち帰ってくれた!
- 大学生の自己肯定感が高まり自信につながった!
- 大学生へ困窮世帯や孤立育児の社会課題を伝えることができ、大学生達の積極的な自発的な行動につながった!

代表理事 ごあいさつ



中辻 憲夫

公益財団法人 中辻創智社 代表理事
京都大学名誉教授
理学博士(京都大学)
生命科学研究者

「豊かな未来のために、私は何を残せるのか？」研究者として長く人生を歩んできた私は、次第にこのようなことを自らに問うようになりました。科学はより良い社会のために必要不可欠ですが、短期的な意義が見え難い領域は支援が行き届いておらず、その広い意味での重要性が、十分に理解されていない現実があります。

基礎的・学術的な科学は長い年月をかけて社会に大きな恩恵をもたらします。そのためには、広く安定した土台を作り続けることが必要です。そこで私は、信頼できる仲間と中辻創智社を立ち上げました。若手研究者達が、資金的な理由で夢を諦めないように。いつか日の目を見るであろう研究が、支援不足で途絶えてしまわないように。そして、子ども達が未来の夢を抱けるように。次の世代が挑戦し続けられる環境を整えるため、自らが培ってきたものを社会に還元する道を選びました。

自然と科学が調和した豊かな未来を築くのは、「人」です。だからこそ、私は「人」を支えたい。私達の活動が、少しでも若者の希望を支え、豊かな未来に貢献することを切に願っています。



公益財団法人 中辻創智社

法人名 公益財団法人 中辻創智社
代表理事 中辻 憲夫
理事 細川 美穂子 / 長谷川 博 / 藤本 一郎
監事 新居 誠一郎
設立 2015年11月13日
事業内容 若手研究者の研究助成事業
志ある若者に対する奨学金事業
社会又は科学技術向上に貢献する活動に対する支援事業
その他この法人の目的を達成するために必要な事業
所在地 〒604-0983
京都市中京区麩屋町通夷川上る笹屋町459番地